

子どもの口腔保健に関する要望項目

- ①学校歯科健診で「要受診」と診断された児童・生徒の実態を調査すること。「口腔崩壊」状態になっている児童・生徒の実態を調査すること。児童・生徒が確実に治療を受けられるよう教育委員会や学校への指導・援助を強めること
- ②「大阪府子どもの生活に関する実態調査」では経済的な理由で子どもを受診させられなかった保護者が1.8%に上ったことから、未受診の解決へ向けた具体策に取り組むこと
- ③府下の全小中学校で給食後の歯みがき指導ができるよう教育委員会や学校へ必要な指導・援助をすること
- ④市町村のフッ化物応用事業への補助金制度を創設すること。学校でのフッ化物洗口の取り組みを進めるため、「フッ化物洗口マニュアル」並びに「市町村教育委員会のためのフッ化物洗口導入の手引き」を策定すること
- ⑤医療ネグレクトの早期発見と早期対応のために、スクールソーシャルワーカーの配置を進めること
- ⑥「児童虐待チェックシート」を改定し、子どもの身体的特徴の項目に「多数のむし歯がある」を、保護者・家庭の特徴等の項目に「歯みがき習慣がない」をそれぞれ追記すること

2018 大阪府交渉



「カジノよりくらしを」と府民が結集したスタート集会は10月18日、大阪市内

協会が加盟する「明るい民主大阪府をつくる会」「大阪市をよくする会」は10月18日、中央公会堂で「カジノ・都構想より、いのち・くらし、防災を！明日の大阪をつくるスタート集会」を開き、850人もの府民が参加した。

基調報告した中山徹氏(奈良女子大学教授)は、「維新府政・市政がすでに住民投票で否決された大阪都構想に執着し続けるのは、大阪市の財源と権限を奪う都構想が実現しなければ、カジノ誘致に関連した大型開発ができないからだ」と強調。「カジノ誘致で市民の福祉予算が削られる」と警鐘を鳴らした。また、中山氏は維新政治の10年間で大阪の経済とく

らして悪化し、医療・福祉は後退、教育が潰されてきたことを指摘し、「政治を変えるには首長を変えるしかない。維新政治を終わらせるため、この1年間で勝負になる」と市民の共同を訴えた。

集会では、パネルディスカッションとして、平松邦夫(公共政策ラボ代表・元大阪市長)、辰巳孝太郎(日本共産党参議院議員)、大垣さなゑ(あかんカジノ！女性アピール呼びかけ人)の3氏がそれぞれの立場から発言。リレートークで

府民集會に850人が結集

カジノよりくらしと福祉

子ども施策の拡充を

協会が2017年に実施した調査では、学校歯科健診で「要受診」と診断された子どものうち64.3%が未受診であるなど受診できない子どもの実態が明らかになった。

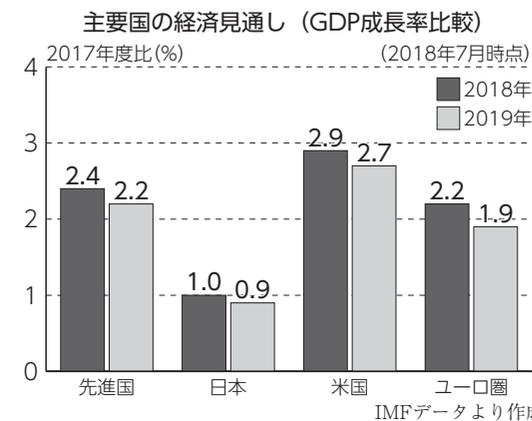
小児う蝕が減少する一方で重度の多発性う蝕を抱える「口腔崩壊」の子どもがおり、口腔内の健康格差が問題になっている。

協会は、行政の責務として学校健診の要受診児童・生徒の受診動向と「口腔崩壊」状態にある子どもの実態を掴み、医療機関にかかれるよう必要な対策を求める。また、大阪府と交渉する。

た、家庭環境に左右されない子どもへの予防対策として、「給食後の歯みがき指導」「フッ化物応用事業」の推進を求める。医療ネグレクトへの対策では、「スクールソーシャルワーカー」の増員、「児童虐待チェックシート」への歯科に関する項目の追加を求める。

府が実施した子どもの生活実態調査では、1.8%の保護者が「経済的な理由で子どもを受診させることができなかった」と回答した。協会は、すべての子どもが必要な医療を受けられる制度設計と健康格差の是正を求め、大阪府と交渉する。

社会保険 財源問題



Q 日本の借金が1千兆円を超えるなかで、財政再建と社会保障充実をどう両立させるのか？

Q 財政と社会保障どう両立？

A 社会保障への支出は経済成長効果が高く、税収増に直結する。1千兆円の借金を解消していくには、経済成長による税収増が不可欠だ。アベノミクスでは大企業の負担軽減に取り組み、GDP(国内総生産)の拡大を図った。しかし、18年のGDP成長率は主要国中最低の1.0%(IMF予想)にとどまっている。

大幅な財政出動を繰り返して、大企業を応援してきたにもかかわらず、経済成長が軌道に乗らないのはなぜか。GDPの内訳は個人消費が6割を占める。企業の設備投資は14%で、輸出に至っては2.3%に過ぎない。つまり、経済成長を図るには家計を温め、個人消費を喚起することが不可欠だ。

社会保障の改善を繰り返せば、家計の実質的な所得は減少し、消費が冷え込む。賃上げに結び付かない大企業支援ではなく、社会保障の充実で経済成長を図り、税収増につなげることが財政再建の近道だ。

患者を思いやる接遇を

大阪市西部地区・南部地区 大阪市西部地区と同南部地区は10月14日、保険医会館で「医療接遇研究会」を開いた。接遇・マナーインストラクターの西出知子氏を講師に会員院所のスタッフら12人が参加した。

西出氏は、医療はサービス業であることを前提とした上で、単に患者と接する「接客」ではなく、相手をとわらぬ・思いやる「接遇」が重要であることを強調。接遇には①身嗜み②挨拶③表情④態度⑤話し方⑥聴き方⑦6つの要素が重要であると述べた。お互いの顔が見えない電話対応では、正確さ・分かりやすさに加えて「感じの良さ」が求められる。

研修では、患者からの予約電話を想定した2人1組のロールプレイング、グループでのディスカッションやワークシートを使った言葉遣いのミニテストなどを行い、西出氏が寸評を加えアドバイスした。

物件案内

歯科医院譲渡

- 【住所】大阪市天王寺区空堀町
 - 【最寄駅】地下鉄・JR各「玉造」駅から徒歩5分程度
 - 【設備】チェア2台、パノラマ・デンタル、自現機、歯科機材付き
 - 【面積】約13平方メートル
 - 【金額】80万円
 - 【その他】病気療養のため、廃院。
 - 【連絡先】080-6107-3365(たや)
- 物件案内・リサイクル情報の掲載申し込みやお問合せは協会新聞部まで。掲載は会員限定。協会は情報提供のみで、掲載内容の確認や条件などの交渉は当事者間でお願います。

誰だったっけ？



大阪大学歯学研究科長・歯学部 予防歯科学 教授 天野 敦雄

最近、各地の歯科医師会にお邪魔する機会が増えた。何となく、どこも会員各位の平均年齢は60歳少々だそうなの。ということは、結構な数の院長先生は私と同じ悩みを抱えているに違いない。思い出そうとしても思い出せず、その焦りさらに思い出しくなる現象だ。

「記憶にございません」

よく聞く国会答弁迷走セリフ。そんなことでごまかされるか！かつて私もそう憤っていた。しかし、この所、ホントにそうなのかもしれないと思つた。

今年6月にヨーロッパ歯周病学会に行った。外人の顔は判別が難しい。3回は会わないと覚えられない。ハイ、Dr.アマノオ。前方から馴れ馴れしく近づいて来た薄めヘアにぼつちやうり男性(中年外人によくある風貌)。「Long time no see」と言つた。返すが、どなた様？ どうやら2年前に日本の学会で出会い、それ以来の再会らしい。私の顔は忘れられないほど超インプレッション？ いやいや、彼の記憶力が凄まじいんだろ(羨ましい)。彼は更に語りかける。「エリートアスリートはむし歯と歯周病が多い話聞いたか？」「ああ聞いたよ」「むし歯はスポーツドリンクのせいだし、歯周病は口呼吸するからだよね」と話が盛り上がった後、See you againと別れた。が、あれから4カ月、今も思い出せない。彼は誰だったんだろう。

「胸に名札が社会的ルールになればいいのに」と教室員にこぼした所、「先生、もうすぐですよ。老人施設じゃ全員名札着用ですから」。何と失礼な奴。その頃は老眼が進んで名札が読めないんだよ！

咀嚼玩味⑥



飲みすぎて記憶がないのは今に始まったことではないから置いておく。5年前迄は一度会った人なら、名前は忘れても顔は頭の隅に残っていた。最近はずう。顔も忘れる。それも綺麗さっぱり。学会やイベントなどで、すれ違う方が挨拶してください。「こんにちは」「お久しぶりです」。誰だったっけ？知らない人(忘れた人)が多いと焦る。部屋への訪問客も怖い。7~8人のスーツ姿のお客さん、お決まりの名刺交換の数分後、さてあの人はど